



シルバー かもがわ



編集/発行 公益社団法人鴨川市シルバー人材センター
鴨川市八色866 (鴨川市福祉センター内)
電話・FAX 04-7093-0124
メールアドレス・kamogawa@sjc.ne.jp

公益社団法人 鴨川市シルバー人材センター令和元年度定時総会が開催される 平成30年度事業報告・決算報告を承認 年間契約金額61,540千円

平成30年度の事業報告、決算報告を審議する「令和元年度定時総会」が、5月20日(月)午後2時から、ふれあいセンター2階のコミュニティホールで開催されました。

来賓として、公務ご多用の中ご臨席をいただいた亀田郁夫鴨川市長から激励のご祝辞をいただきました。

総会は、会員総数217名のうち当日の出席者40名、委任状の提出者91名、合計131名で、会員総数の2分の1以上の定足数に達し、議長に長谷川常務理事、議事録署名人に菊地順子理事と曾呂地区の川名満重会員を選出して議事が進められました。

支払配分金55,643千円

議案第1号「平成30年度事業報告」は、契約金額61,540千円で、会員への配分金55,643千円となりました。

年間受託件数は1,505件、就業延べ人員は



11,941人でした。

契約の内訳は、公共事業が17,724千円(28.8%)、民間事業所が20,370千円(33.1%)、一般家庭が23,446千円(38.1%)でした。

本シルバー人材センターも会員数が減少する傾向にある中、特に草取りに就業する会員の不足により、お客様の要望に応えきれない状況となっておりますので、会員の皆様方には会員確保へのご協力をお願いいたします。

今後も社会性と自覚を持ち委託業務の完全な施工により、シルバー人材センターの評価と信頼を高め、就業機会の拡大や会員の加入につながるよう、努力と研鑽が必要不可欠であると思われま。

平成30年度決算報告

議案第2号「平成30年度決算報告」は、会員皆様の就業による受託事業収入61,540千円、会員からの会費352千円、国庫補助金7,100千円、鴨川市補助金7,100千円等で経常収益計76,092千円となりました。

支出は、就業会員へ支払った配分金55,643千円、材料費等1,735千円等の経常費用計75,712千円となりました。

なお、財産目録では、資産合計が11,805千円、負債合計が3,697千円となり資産合計額から負債合計額を差し引くと、8,108千円が平成31年3月31日現在の正味財産となります。

受託事業収入は減少傾向にありますので、これまで以上に就業拡大に努めてまいります。

新役員が選任される

議案第3号「役員（理事・監事）の選任について」は、2年間の任期満了に伴い、役員の変更が行われました。

新しい役員の名前は次のとおりです。なお、任期は、5月20日から令和3年度定時総会までとなります。

(敬称略)

《理事》

菊地順子（再任）、川名弘一（再任）、鈴木助市（新任）、岡安俊夫（新任）、荒川幸夫（新任）、押本敏夫（新任）、川上良之（新任）

《監事》

戸田一也（再任）、高橋隆一（再任）

以上の議案第1号から第3号の議案は、すべて原案のとおり可決承認されました。

なお、今回退任された理事は、以下の方々です。長い間、お疲れ様でした。

小島弘嗣氏（会長）、田村勉氏（副会長）、

佐久間ゆき氏、松本友一氏、長谷川勉氏（常務理事兼事務局長）

会長に鈴木助市氏が就任

定時総会終了後、臨時理事会が開催され、新役員の互選により会長、副会長、常務理事が選任されました。

結果、3期6年にわたり会長を務められた、小島弘嗣氏の後任に鈴木助市氏が選任されました。退任された小島前会長は、ワンコインサービス事業の実施やボランティアを通じた、地域貢献事業に積極的に取り組むなど、鴨川市シルバー人材センター発展のため、たいへんご尽力されました。

また、副会長には岡安俊夫氏、常務理事には川上良之氏が選任されました。

新会長に選任された鈴木助市氏は、平成15年に会員登録され、平成11年からは鴨川市シルバー人材センターの臨時職員として13年間勤務されました。

今後の、鴨川市シルバー人材センターの舵取り役を担っていただきます。

会長就任にあたって

令和元年度定時総会並びに臨時理事会においてご勇退された小島前会長に代わり選任いただき、会長職を努めることとなりました鈴木でございます。



鴨川市シルバー人材センターは、平成5年の設立から26年、公益社団法人に移行して7年が経過したところですが、元号も平成から令和に変わり、新しい時代に、明るく、より魅力のあるシルバー人材センターとなるように、役員及び事務局職員一同力を合わせ、また、会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら、事業の推進を図ってまいります。会員の皆様のご支援、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

長谷川勉さん勇退

平成27年4月から4年余りにわたり、鴨川市シルバー人材センターの常務理事兼事務局長として勤務された、長谷川勉さんが5月20日をもって退任されました。

在職中は、小畠前会長を補佐し、ワンコインサービス事業の開始や、千葉県シルバー人材センター連合会とシルバー派遣事業契約を締結するなど就業拡大に努力されたほか、「女性の集い」を開催するなど会員増加のためにもご尽力されました。

長谷川さんには、長い間シルバー事業発展のためご尽力いただきありがとうございました。今後とも、会員としてご協力をお願いします。

救急法講習会開催

鴨川市シルバー人材センターは、従前より、鴨川市から福祉センター及び江見老人憩いの家の入浴の運営業務を委託されているところですが、時折、具合の悪くなる方がいらっしゃいます。そんな時、事務局職員を含めた担当者が、自信をもって対応できるように、4月24日に、鴨川消防署の救急隊員を講師にお願いし、福祉センター1階ホールで救急法の講習会を開催しました。

当日は、AEDの取り扱い訓練も実施しましたが、会員及び事務局職員合わせて12名が参加し、大変有意義な講習会となりました。今後も定期的に関心を持って開催したいと考えています。



会員の募集

公益社団法人鴨川市シルバー人材センターでは、随時会員の募集を行っております。特に草取りの出来る会員が不足していて、お客様の希望日に添えずご迷惑を掛けているのが実情です。市内在住でおおむね60歳以上の健康で働く意欲のある方がご近所やお知り合いの方でいらしたら、入会されるようお勧めしていただくようお願いします。

親睦旅行

秋の深まりが感じられ、日一日と秋色が濃くなってきた、平成30年11月18日の日曜日、恒例の会員親睦旅行を28名の参加をいただき、実施しました。

今回は、「晩秋の横浜散策」と銘打った日帰り旅行でしたが、横浜港クルージングでは、異国情緒あふれる横浜の魅力を船上から満喫することができました。

また、国の名勝、「三溪園」では、明治、大正の歴史と文化にふれ、昼食は、超一流ホテルでビュフェ形式の食事を堪能しました。また、当初は予定になかった、川崎大師のお参りもすることができました。

今年も親睦旅行を計画していますので、会員の皆さんには、ふるって参加をお願いします。



「熱中症」は、夏場の高温かつ多湿な環境に

長くいることで、徐々に体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調整機能がうまく働かなくなり、体内に熱がこもった状態を指します。屋外、屋内を問わず、熱中症が引き起こされ、生命に危険を及ぼす恐れがあります。

会員の皆様には、就業中において、頭痛、吐き気、めまい、立ちくらみ、手足のしびれ等の症状が出たら、仕事を中止して、症状が重い場合には、病院にかかってください。

また、シルバー人材センターでは、新たに、熱中症見舞金制度に加入しましたので、熱中症と診断された場合は、事務所への連絡をお願いします。

《熱中症予防策》

- 室内でも、屋外でも、のどの渇きを感じなくても、こまめに水分を補給しましょう。
- 通気性のよい、吸湿性・速乾性のある衣服を着用するなど、暑さ対策を行い、こまめに休憩をとりましょう。
- 日頃から、栄養バランスの良い食事を取りましょう。

就業中の事故ゼロを目指して

昨年度は、会員の皆様のご協力により、幸いにも就業中の事故はありませんでした。昨年度に続き、今年度も次の10か条を守って、就業中の事故を無くしましょう。

【みんなで守ろう10か条】

- 安全第一を心掛け、急いだり、あわてたりしないこと。
- 器具類は、使用する前に必ず点検する。
- 服装及び履物は、業務に適したものにすること。
- 就業前には、軽い柔軟体操をして体をほぐすこと。
- 高齢による諸機能の低下を十分に認識し、無理はしないこと。
- 作業現場は、常に整理整頓に心がける。

- 共同事業では、合図及び連絡は、正確に行うこと。
- 酒気を帯びての就業は、絶対しないこと。
- 健康には、常に注意し、健康な状態で就業すること。
- 就業の前日は、十分睡眠をとるように心掛けること。

会費納入のお願い

事務局からのお願いです。会費をまだお支払いいただけてない会員は納入をお願いします。

なお、会費の2,000円は、毎年5月末日までに納めていただくことになっていますので、忘れていた方は、早急に、直接事務所にお持ちいただくか、お振込みの手続きをしていただきますようお願いいたします。



編集後記

いよいよ、夏らしくなってくる時期ですね。梅雨の時期が終わると、今度は台風の時期がやってきます。台風や大雨は、毎年大きな災害をもたらします。

「備えあれば、憂いなし」という言葉があります。自然災害は止めようがありませんが、不断の努力によって、被害の軽減を図ることは、十分可能です。災害への備えをもう一度確認しましょう。